

揺るがぬ心のかたち

古い逸話に、剣の達人を育てた師の話があります。弟子は修行を始めた頃、技を誇り、他者と比べては勝ち負けにこだわっていました。しばらくして師に様子を問われると、「技は鋭いが、心が騒がしい」と評されます。さらに鍛錬を重ねると、弟子は相手を静かに見据えるだけになりました。そして長い時を経た後、師は「完成だ」と告げます。相手が構える前から、弟子の佇まいだけで勝負は決していたのです。

積み重ねた修練によつて身についたのは、「動じない心」でした。強さを誇示する必要がなくなり、争いそのものが消えていったのです。人も同じで、経験を重ねるほど心は落ち着き、些細な出来事に振り回されなくなります。すべての歩みの「原点」に立ち返り、心を整え続けることで、静かな迫力は育まれます。

周囲を安心させる存在を目指し、日々を重ねていきたいものです。

今日の言葉・揺るがぬ心が道を拓く

本当の強さは、声を張り上げたり力を誇ったりするところにはありません。長い時間をかけて自分を磨き続ける中で、自然と身につくものです。困難な状況でも感情に流されず、冷静に受け止められる人は、不要な衝突を避けることができます。



心を鍛えるとは、我慢を重ねることではなく、揺れた自分を立て直す力を養うことです。そうした人は、周囲に安心感を与えます。言葉が少なくても、その姿勢が周りを落ち着かせ、前向きな空気を生み出します。腹が据わった人の存在は、困難な場面ほど大きな支えとなるでしょう。一朝一夕では身につかないからこそ、日々の積み重ねが意味を持ちます。静かな強さを育てる歩みを、今日から続けていくことが大切です。

【今回の学び】⇒心を磨く積み重ねが、争いを遠ざける！

揺るがぬ心のかたち

古い逸話に、剣の達人を育てた師の話があります。弟子は修行を始めた頃、技を誇り、他者と比べては勝ち負けにこだわっていました。しばらくして師に様子を問われると、「技は鋭いが、心が騒がしい」と評されます。さらに鍛錬を重ねると、弟子は相手を静かに見据えるだけになりました。そして長い時を経た後、師は「完成だ」と告げます。相手が構える前から、弟子の佇まいだけで勝負は決していたのです。

積み重ねた修練によつて身についたのは、「動じない心」でした。強さを誇示する必要がなくなり、争いそのものが消えていったのです。人も同じで、経験を重ねるほど心は落ち着き、些細な出来事に振り回されなくなりません。すべての歩みの「原点」に立ち返り、心を整え続けることで、静かな迫力は育まれます。

周囲を安心させる存在を目指し、日々を重ねていきたいものです。

今日の言葉・揺るがぬ心が道を拓く

★問一（漢字・語句） 文中の「動じない」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

- ア 感情を表に出さないこと
- イ 何があつても心が乱れないこと
- ウ 相手に関心を持たないこと
- エ 素早く動くこと

★問二（選択） 修行を始めた頃の弟子の様子として正しいものはどれか。

- ア 勝ち負けにこだわらなかつた
- イ 技よりも心を重視していた
- ウ 他者と比べ、技を誇っていた
- エ 相手を静かに見据えていた

★問三（選択） 師が最後に「完成だ」と告げた理由として、最も適切なものはどれか。

- ア 弟子の技が誰よりも速くなったから
- イ 弟子が争いを楽しむようになったから
- ウ 弟子が相手を恐れなくなったから
- エ 弟子が動じない心を身につけたから

★問四（選択） 本文の内容に合っているものはどれか。

- ア 強さは相手を倒すことで示される
- イ 経験を重ねるほど心は乱れやすくなる
- ウ 心を整え続けることで静かな迫力が生まれる
- エ 争いは強さの証である

★問五（記述） 本文を踏まえて、「揺るがぬ心」が周囲を安心させる

理由を書きなさい。（40字程度）

模範解答・解説

★問一 模範解答 イ

○解説④ 本文では「動じない心」を、修練によって身につけた強さとして描いている。些細な出来事に振り回されず、心が乱れない状態を指すと読み取れる。

★問二 模範解答 ウ

○解説④ 修行を始めた頃の弟子は、技を誇り、他者と比べて勝ち負けにこだわっていたとある。心が騒がしいと評された点が重要である。

★問三 模範解答 エ

○解説④ 長い修行の末に弟子が身につけたのは「動じない心」であった。強さを誇示せずとも勝負が決する境地に達したことが完成の理由である。

★問四 模範解答 ウ

○解説④ 本文では、原点に立ち返り心を整え続けることで「静かな迫力」が育まれると述べている。争いや誇示ではなく、内面の安定が強さである。

★問五(記述) 模範解答(例)

心が乱れず落ち着いている姿が周囲に安心感を与えるから。

○解説④ 本文は、動じない心が争いを消し、静かな迫力を生むと述べている。安定した態度が他者に安心を与える点を押さえてまとめることが大切である。

本当の強さは、声を張り上げたり力を誇ったりするところにはありません。長い時間をかけて自分を磨き続ける中で、自然と身につくものです。困難な状況でも感情に流されず、冷静に受け止められる人は、不要な衝突を避けることができます。



心を鍛えるとは、我慢を重ねることではなく、揺れた自分を立て直す力を養うことです。 そうした人は、周囲に安心感を与えます。 言葉が少なくても、その姿勢が周りを落ち着かせ、前向きな空気を生み出します。 腹が据わった人の存在は、困難な場面ほど大きな支えとなるでしょう。 一朝一夕では身につかないからこそ、日々の積み重ねが意味を持ちます。 静かな強さを育てる歩みを、今日から続けていくことが大切です。

【今回の学び】⇒心を磨く積み重ねが、争いを遠ざける！